

2008/3/27更新

## さがえ西村山地域営農実践フォーラム

### 新たな営農体制確立へ

【寒河江市】

県内における農業法人の先進事例から西村山地域の新たな営農体制の仕組みづくりの展開を図ろうと「08さがえ西村山地域営農実践フォーラム」(さがえ西村山広域農業活性化センター主催)が3月3日、寒河江市のJAさがえ西村山で開かれた。生産組織や関係団体の代表など約200人が参加。基調講演や実践事例発表を通じて集落の担い手確保と団地化による農地利用集積を積極的に進めることを確認した。

### 県内農業法人の先進事例に学ぶ

西村山地域は水田経営所得安定対策(品目横断的経営安定対策)の施行に県内でもいち早く対応し、41の集落営農組織を設立。管内すべてを網羅している

今年産の米価下落に対して、農家の収入減少を最小限にとどめることができたものの、現在の営農組合からどのようにして法人経営に結びつけるかが課題の一つだ。

フォーラムでは初めに、三川町で株式会社「竹原田ファーム」を経営する齋藤勝洋代表取締役が、「法人による農業経営の更なる発展に向けた取組」と題して基調講演した。



営農実践フォーラムは、新たな営農体制の仕組みづくりの展開を図ろうと行われ、約200人が参加

で、担い手農家が効率的に農作業を行うことができない。効率よく経営するには、農地の面的集積が重要」と訴えた。

また、管内の「三泉営農組合」(寒河江市)と「西里営農組合」(河北町)が、これまでの取り組みと課題を発表。参加者は、担い手の育成や農地集積による低コスト生産の確立、安全・安心な国産食材の供給による消費者の信頼獲得などを確認した。

同社は、農作業の共同化と機械の共同利用を目的に、1989年に「設立された営農集団「竹原田ファーム」が前身で、06年度に株式会社に変更。現在、取締役3人と従業員6人で、稲作約20%のほか、もち加工や農産加工品などの販売、作業受託事業に取り組んでいる。

「自ら販売することで、顧客からの反応がダイレクトに伝わるし、工夫や責任感が出てくる」と齋藤取締役は話し、「組織も誰かが責任を負う気概がないと運営してはいけない」とアドバイスした。

続いて、全国農業協同組合中央会の馬場利彦農政対策部長が「農地政策と担い手への利用集積について」と題して講演。現在の農業情勢を踏まえた上で、「農地がバラバラ